富水小学校内装木質化

令和７年度　学校木の空間づくり事業

小田原市農政課

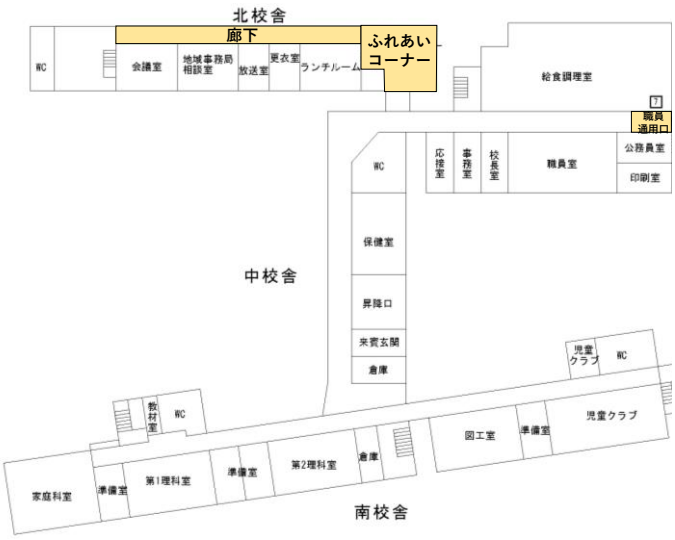
事業概要

所在地	神奈川県小田原市飯田岡481
構造	鉄筋コンクリート造・3階
工事種別	内装木質化改修
施工期間	令和7年7月～10月
事業費	約3,000万円
木材使用量	スギ　18.3㎥
（小田原産木材）	ヒノキ　9.2㎥

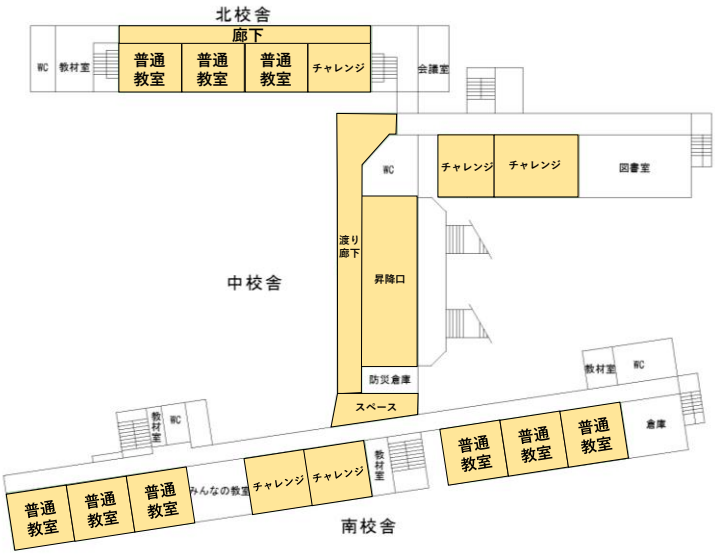
事業主体	小田原市農政課
木材生産	小田原市森林組合
製材	小田原地区木材業協同組合
設計	小田原市建築課、小田原市建築事業協同組合
施工	小田原市建築事業協同組合 （鏑木建設株式会社・株式会社三心）
室名サイン製作	一般社団法人箱根物産連合会（いぶき会）
まなびパネルイラスト	園内せな

木質化対象箇所

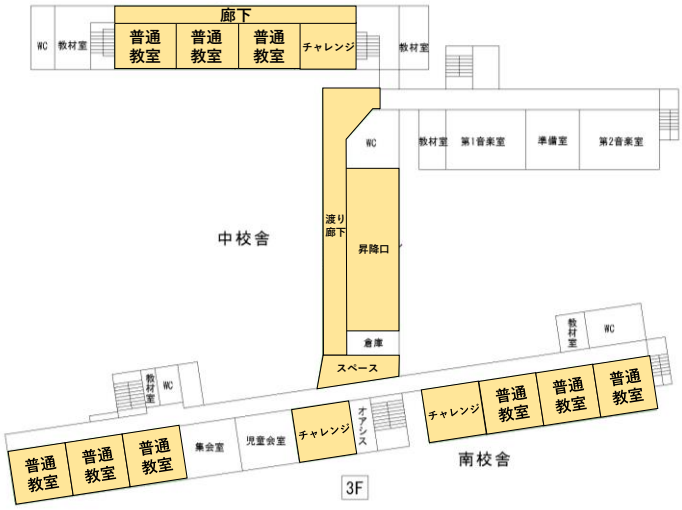
1階



2階



3階



木質化メニュー

ルーバー張り
（ヒノキ）

ルーバー張り
（デザイン：ヒノキ）

腰壁板張り
（ヒノキ：横）

腰壁板張り
（ヒノキ：斜め）

壁面重ね板張り
（スギ・ヒノキ）

柱板張り
（横交互：スギ・ヒノキ）

壁面板張り
（ランダム：ヒノキ）

柱板張り
（コーナー：ヒノキ）

柱板張り
（装飾：ヒノキ）

梁板張り
（横：ヒノキ）

座面磨き上げ、
板張り（ヒノキ）

小上がり
（ヒノキ）

幅広ベンチ
（ヒノキ）

長ベンチ
（ヒノキ）

幅広机
（ヒノキ）

スツール
（ヒノキ）

掃除用具入れ
（スギ）

ブックラック
（スギ・ヒノキ）

掲示板

電源枠取り

教室サイン

展示棚（ヒノキ）

デザインアート（ワークショップ）

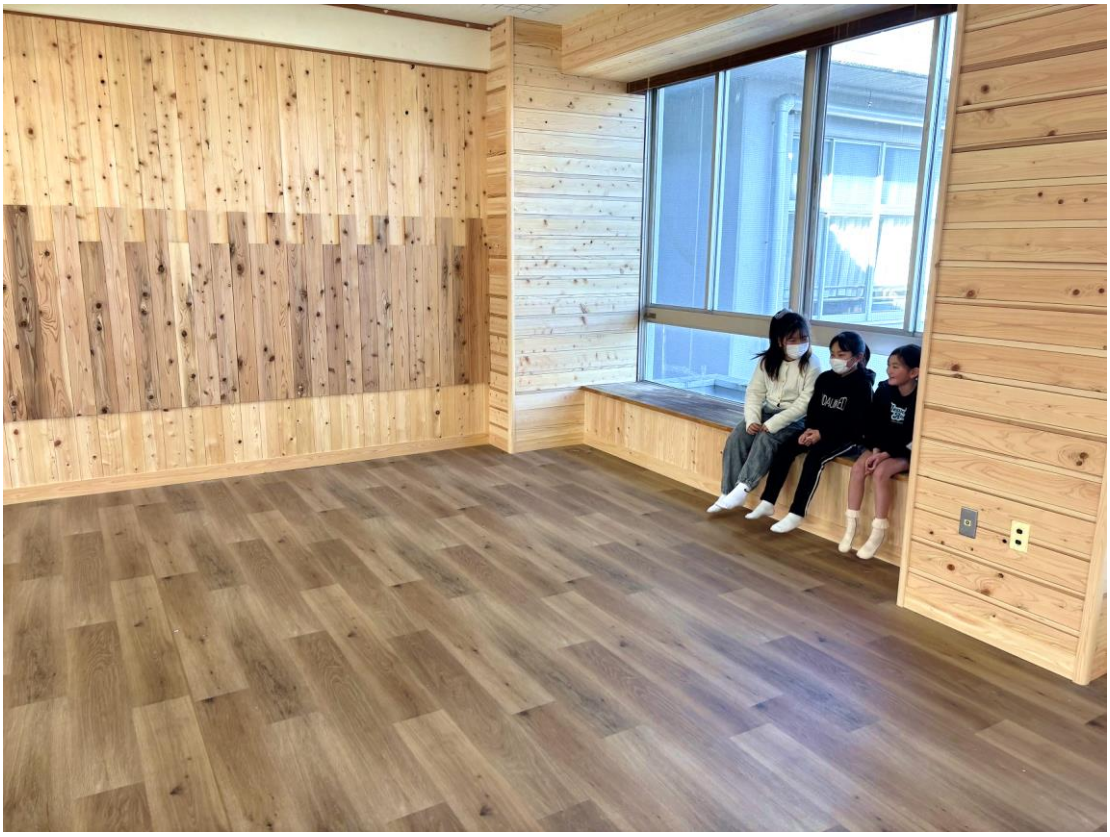
まなびパネル（ヒノキ）

ふれあいコーナー

普通教室

昇降口

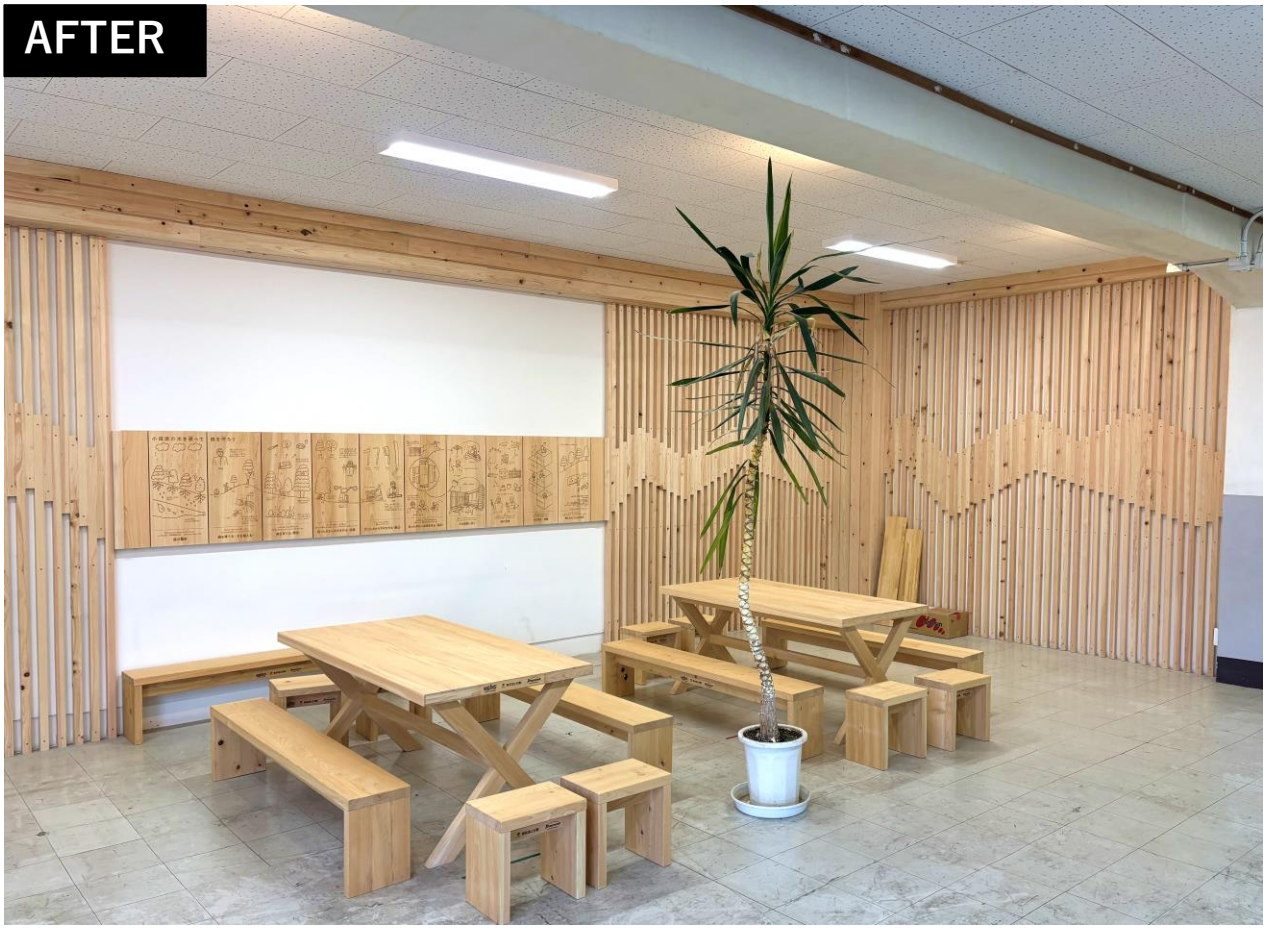
多目的ホール・渡り廊下



端材ワークショップ

ふれあいコーナー

旧昇降口が学校や地域の方々の団らんの空間へ



ルーバー張り / 柱縦板張り / ヒノキ梁 / 机 / スツール / ベンチ / まなびパネル

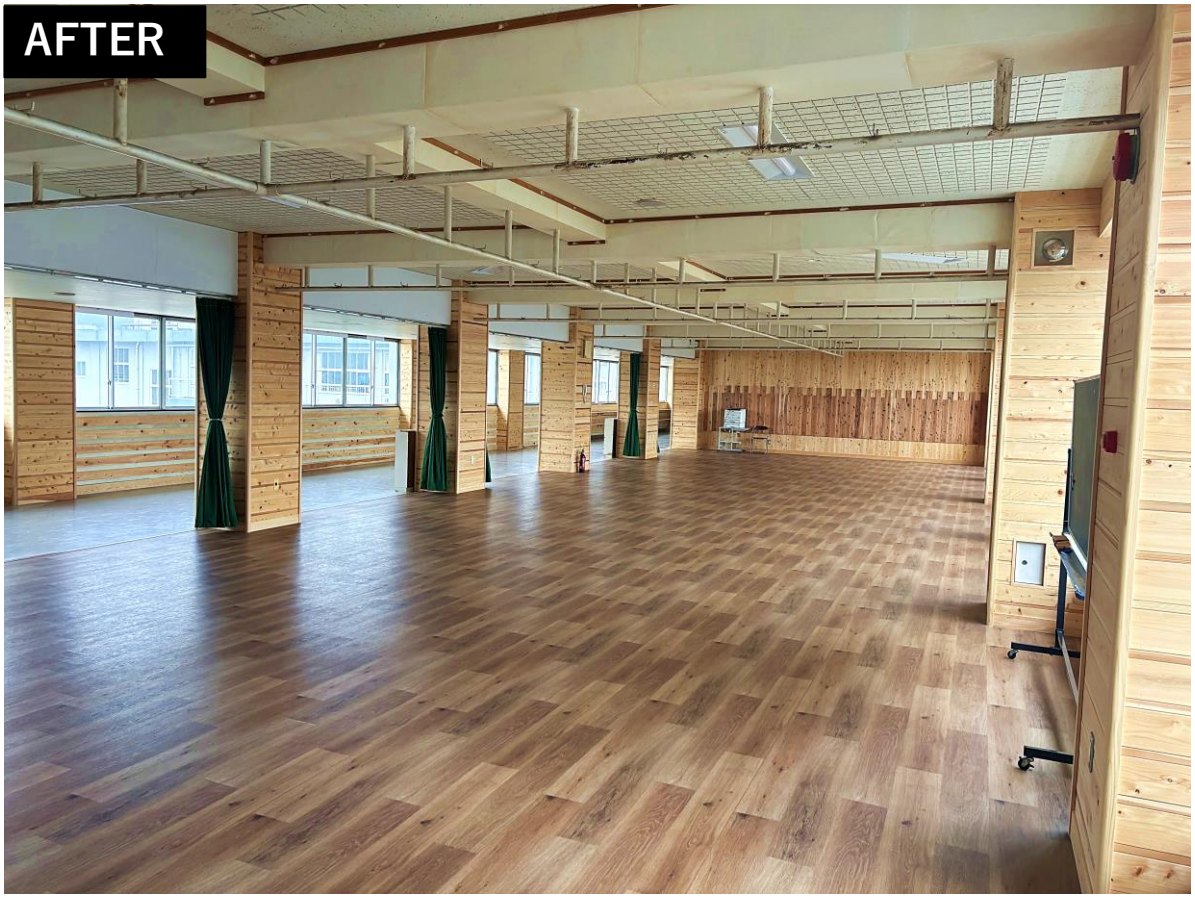
荷物置きとして使われていた旧昇降口が、地域の方々など学校関係者がミーティングできる落ち着く空間になった。

ルーバーは、富水小学校の近くにある狩川と仙了川の流れをイメージ。

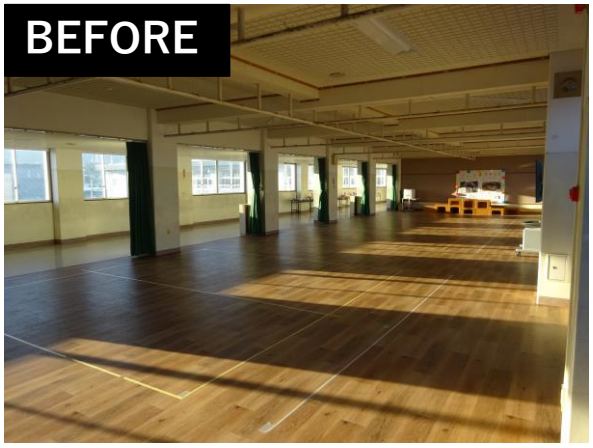
机や椅子などの什器は、（株）ウエインズトヨタと東京海上日動火災保険（株）の寄付を受けて、小田原市森林組合から寄贈いただいたもの。

多目的ホール

学校の中心となる大空間に大工の技術を



板張り（縦・横・交互・コーナー）　／　小上がり　／　巾木



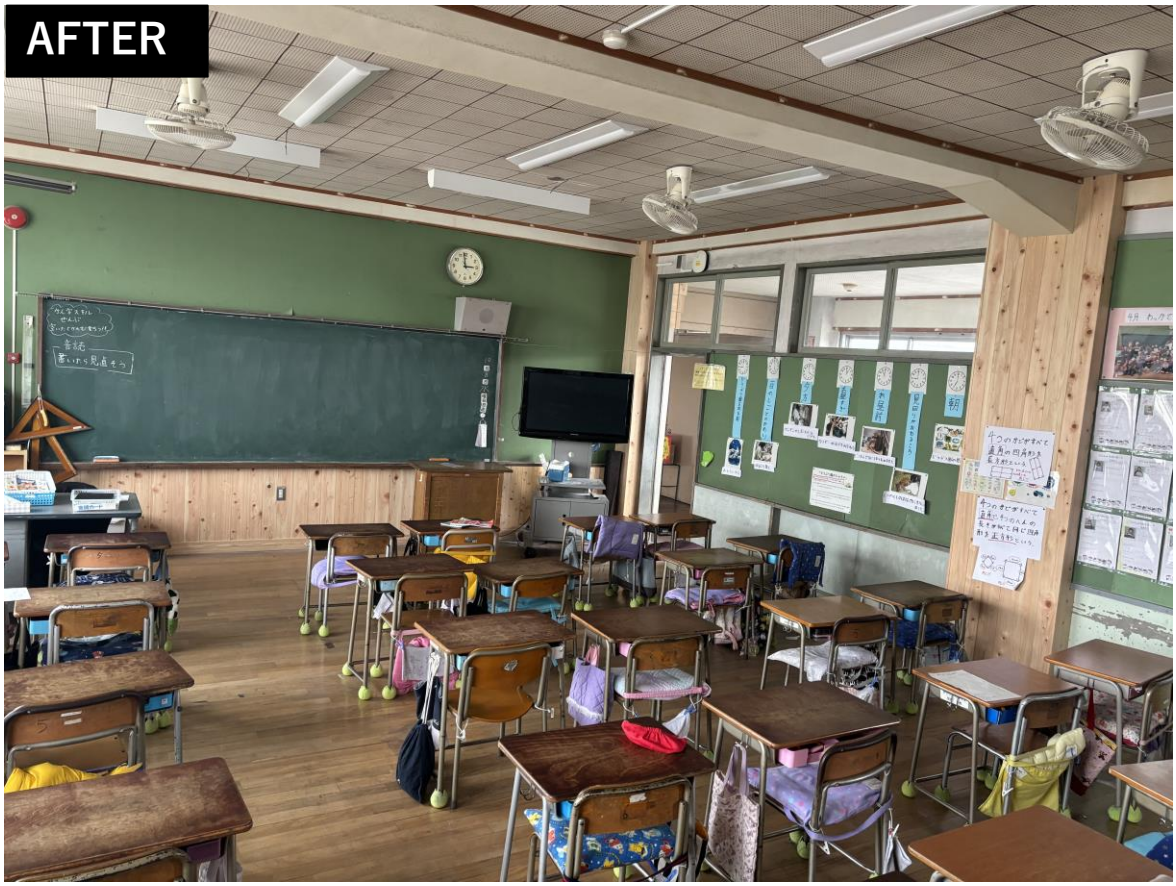
単なる板張りだけではなく、縦や横など複数の工法を組み合わせることで、施工した面によって異なる印象に。大工の技術が光る大空間となった。

併せて、窓側の梁や小上がりを改修することで、太陽の光が木の温かみを演出する児童の居場所となった。

（右写真）
スギやヒノキを混合で使用することで
質感の違いが木の魅力を引き立てている。

普通教室

木を学年で使い分け進級により木の変化を感じる

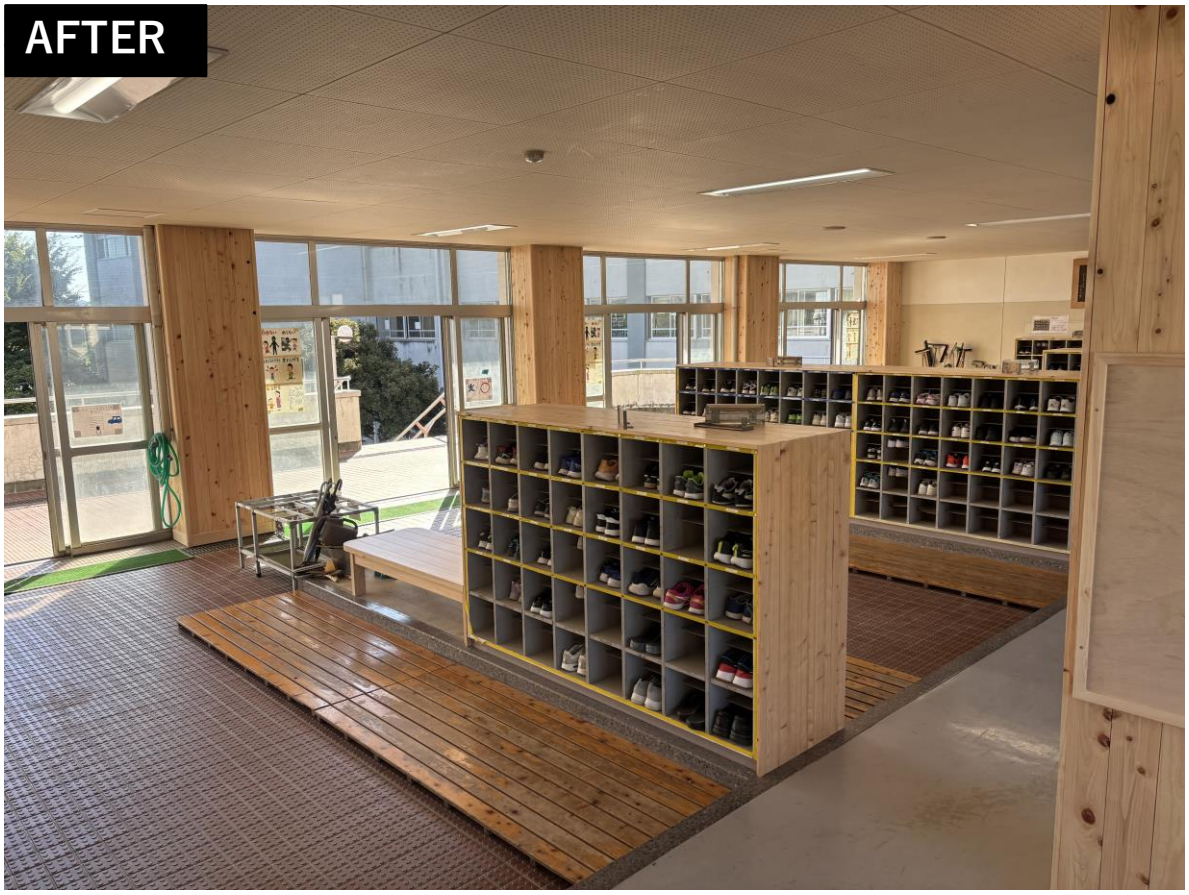


柱板張り　／　腰壁板張り　／　巾木

（上、左下写真）
奇数（1.3.5）学年はスギ、偶数（2.4.6）学年はヒノキを使用し、進級したときには、色味や香りなど樹種の違いを感じる。
スギは、赤みや白太など木の色味をなるべく揃えて施工した。

昇降口

学校の顔となる昇降口にヒノキの香りと明るさを

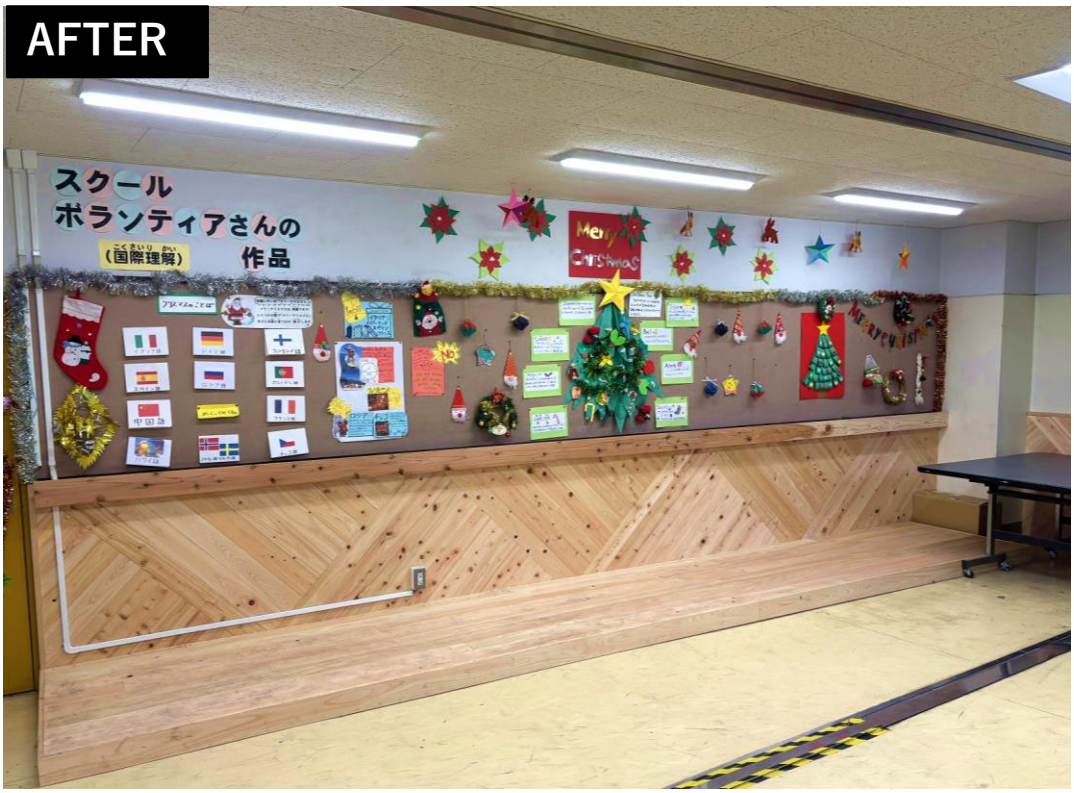


柱縦板張り ／ 靴箱板張り ／ 幅広ベンチ ／ 掃除用具入れ ／ 掲示板 ／ 巾木

富水小学校の象徴であるシンデレラ階段から繋がる昇降口は、ヒノキで統一することで明るくヒノキの香りが心地よい空間に仕上がった。
靴箱の高さや配置を見直すことで開放感を演出し、児童が顔を見ながら挨拶ができるようにした。

南館スペース

木の明るさで、より注目される情報交流スペースに



ヒノキ舞台 / ブックラック / 斜め板張り

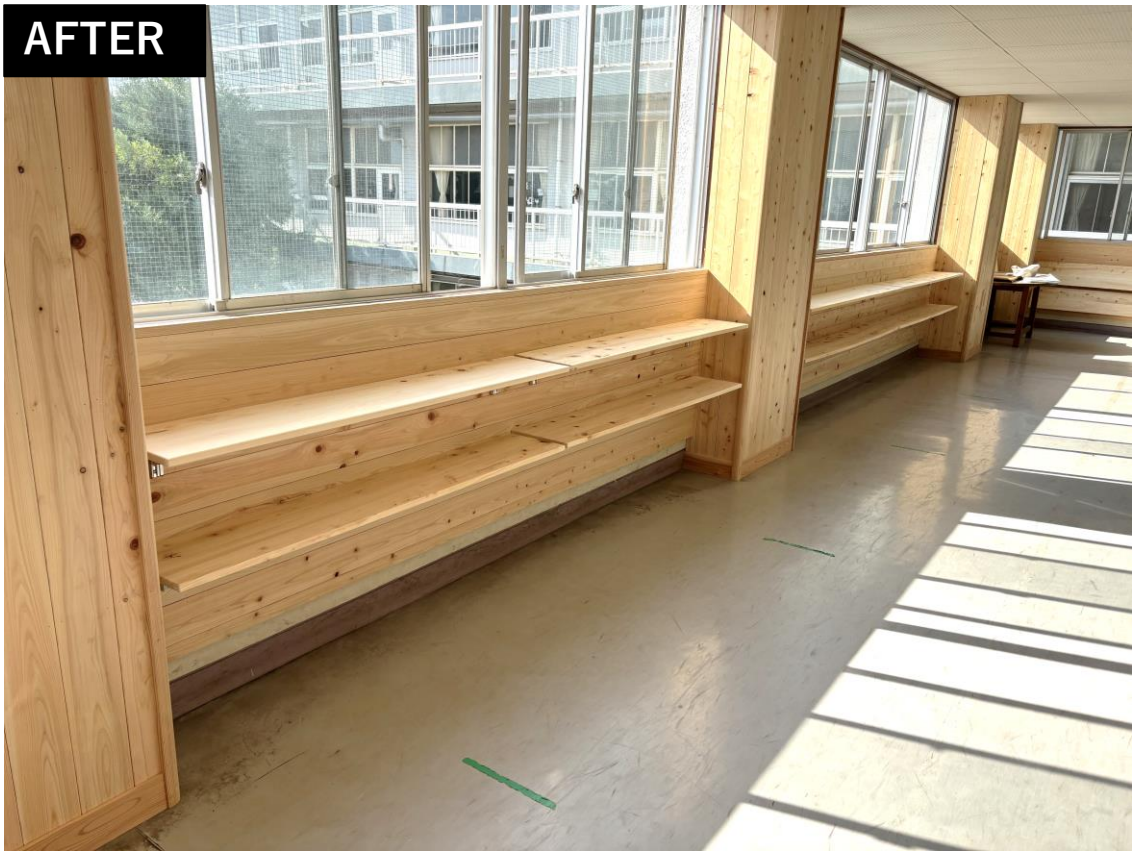
ボランティアさんによる四季折々の掲示物が木の明るさで見映えする空間となった。

（右下写真）
ヒノキの斜め板張りは大窪小学校で初めて採用したもので以降も学校には好評。

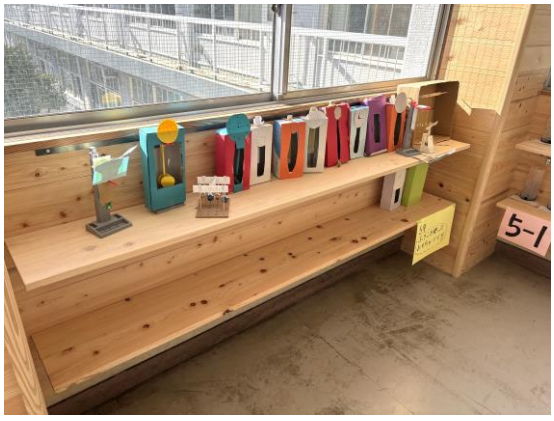
渡り廊下

素通りしていた渡り廊下が小さな美術館へ

展示棚 / 縦板張り / コーナーガード / 巾木



学校の要望により開閉式の作品棚を２～３階の渡り廊下に設置。
ポスターが無造作に貼られていた渡廊下が、一歩立ち止まり作品を鑑賞する場となった。

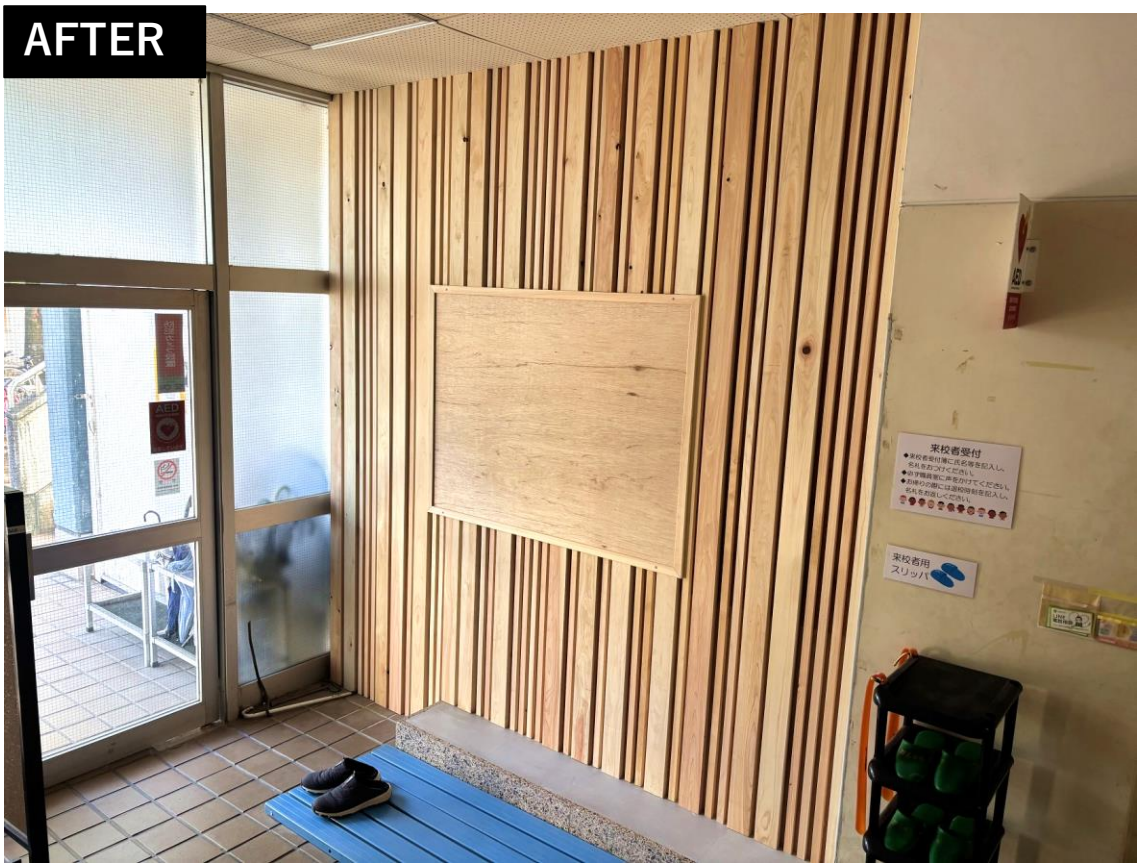


（右下写真）
太陽の光と木の色味が天然のスポットライトとなり、展示物を照らす。

職員・来校者通用口

来校者に木の魅力を

掲示物 / 縦板ランダム張り



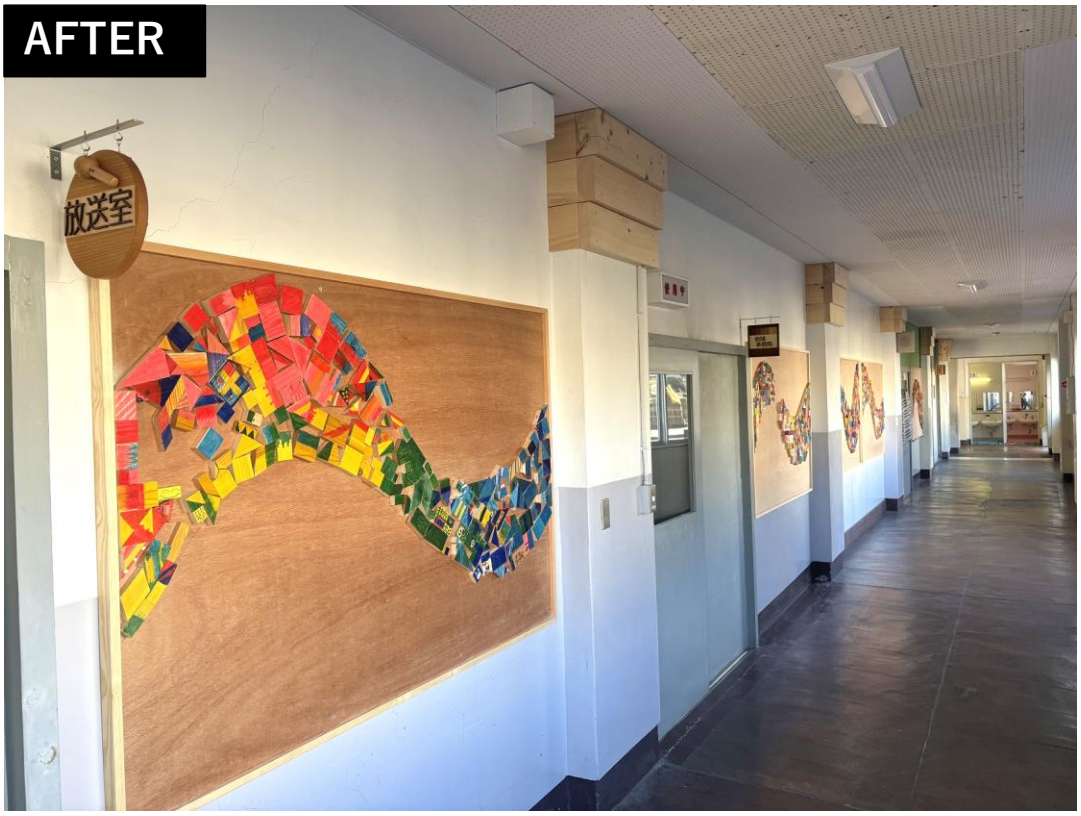
職員やスクールボランティアが使用する通用口を木質化。様々な寸法の材をランダムに板張りすることで迫力のある木の空間に変化した。

（右下写真）
木質化の端材を利用し、
用務員さんが製作したベンチ

北館廊下

道行く方々に木質化の良さを

校舎の北館は歩道と道路に面しており、通行する人や車がデザインアートや板張りなど、木の設えを感じることができる。製作したアートは、色味や配置など学年ごとの個性が出る作品となった。



デザインアート/ 柱板張り（装飾・コーナー）

（右下写真）
１階と３階の柱には装飾デザイン、
２階にはコーナーガードを設えている

まなびパネル・室名サイン

ヒノキ板張り ／ レーザー加工

10枚の連なったパネルで森林の働きや間伐の必要性が学べる。小田原産の幅30cmのヒノキ（無垢材）を使用。

地域の方々にも見てもらえるように北館ふれあいコーナーに設置。

寄木 ／ ろくろ ／ 漆

地元の若手職人による教室の木製サイン。同じ寄木でも職人によって異なった仕様に。小田原の木の文化を次世代に伝える。

端材を使ったワークショップ

木質化後に出た端材も無駄にせず、新たな作品（デザインアート）に。
川の流れをイメージし、地元の大工さんにも協力いただきながら、
色とりどりに塗った木材を貼り付けた。

木の種類の話や木質化の感想を聞きながらワークショップを実施。
児童からは「明るくなった！木の香りが良い！」という声が多数。
学年ごとに製作した作品は、校外（道路）からも見える北館の廊下に設置。

ＰＴＡ・地域との連携

端材を使用したすのこ製作

木質化で使用した材の中には、半端な長さや片面が丸みを帯びた材が多く出る。その材の有効活用として、富水小学校ちょハボラの会※が中心となり、昇降口のすのこを３台製作した。製作したすのこは１年生が使用。

※「ちょっとハードなボランティア」の略。保護者有志による活動グループ

地域の方々や小学校職員の手により、プラスチックで劣化していたすのこが思いがこもった、暖かみある「ヒノキのすのこ」になった。

富水小学校が木質化されるまで

木質化で使用する小田原産木材は令和６年度から調達。原木の伐採、一次製材、乾燥をした後、二次製材を行い施工。設計内容については繰り返し学校と協議を重ね、地域の方々（自治会、PTA、学校運営協議会など）へ事業説明を行い、木質化への合意形成を図った。

木材生産

伐採・運搬

一次製材

乾燥・二次製材

設計

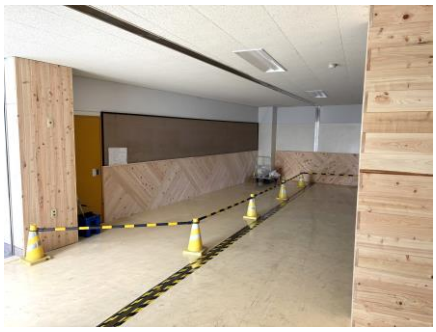
パース図作成

積算・実施設計

施工

資材搬入

下地、板張り工事・什器製作



竣工

小田原市農政課